

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900862		
法人名	有限会社 シェナリゾート		
事業所名	グループホームことぶき II		
所在地	旭川市3条通21丁目1973番地の10		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0172900862-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事・献立を作り買い出しをして手作りの食事を提供している。敷地内でも家庭菜園をし、農家さんから旬の取れ立て野菜、果物を求めて使用し味付け、盛り付けに配慮している。
 施設内の行事・古来の伝統行事は一年を通じておこなっている(初詣・節分・雑祭・端午の節句・七夕飾り・ことぶき夏祭り・敬老会・お彼岸のおはぎ・十五夜飾り・冬至かぼちゃ・クリスマス会・ボランティアの民謡、大正琴コンサートほか)
 外出の行事・四季を通じて外出の機会をつくり体力維持、五感刺激、気分転換に努めている(花見・いちご狩り・上川神社祭縁日・15丁目七夕見物・紅葉と秋の味覚・文化会館へ歌芸の講演会ほか)
 手伝い・朝のおしほりたたみ・もやしの芽取り・煮りんごの皮むき・漬物を漬ける時の皮むき〜刻みの包丁作業も行っている。
 入居前からの風習を大切に、出来る事と出来ない事の見極めをしながら、日々を有意義に暮らせる様に支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市3条本通りに面していて、近隣には大型スーパーや病院、消防署、住宅街が立ち並ぶ一角に平成14年2月開設の木造2階建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。
 大正琴や民謡等のボランティアの協力を得ていたり、毎年恒例の「夏祭り」では、家族や地元の人々に参加を呼びかけていると共に太鼓や三味線等のボランティアの協力を得ながら、地域の人々との連携に取り組んでいる。
 一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣散歩や買い物、朝日地区のふれあいサロンなど戸外に出かけたり、上川神社祭の縁日や花菜里ランド、美瑛までのドライブや旭山公園での花見、果樹園でのぶどう狩りや比布でのイチゴ狩り、公会堂でのコンサートに出かけるなど四季折々の外出計画を立てて普段では行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、意識しながら職員一同で実践している	事業所独自の理念を職員会議やミーティング等で話し合い、職員間で共有してその実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の役員をしたり、公民館活動に入居者と共に参加している	大正琴や民謡等のボランティアの協力を得ていたり、毎年恒例の「夏祭り」では、家族や地元の人々に参加を呼びかけていると共に太鼓や三味線等のボランティアの協力を得ながら、地域の人々との連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症研修に参加し、認知症の方への関わり方や行動に理解をして頂ける様にアドバイスしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	開催時に、構成員やご家族からの意見を聞き、改善する点などは職員に周知しサービス向上に努めている	運営推進会議では、避難訓練や事故防止対策等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また、定期的に開催できるよう検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中央包括支援センターとの繋がりを重視し、推進会議への参加を頂き、研修会があれば積極的に参加をしている	市担当者及び地域包括支援センターとは、日常業務を通じて報告や情報交換、助言を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド上での柵の拘束は無く、センサーを設置し感知した時は素早い対応をしている。職員も認識している	身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会開催や外部研修会参加で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員も虐待防止の研修会に参加し、内部研修もして周知しており、虐待が起らない様に注意を払っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会へ参加したり、現在も利用されているので、今後も必要に応じて活用出来る様に支援をしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族は入居時に既に退去時の事の不安が有る。重度化に伴い医療行為の必要性に合わせて退去に至る事の説明をし理解をした上で契約を結んでいる		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と職員との関係を密にして、要望や苦情の聞き易い雰囲気をつくり、意見等が出た時には、伝言ノートで職員全員に周知し反映させている	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置し、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、苦情等の第三者機関への申し出先を掲示して意見等を言い表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	三者面談の時や朝のミーティングで、職員の意見は聞いて受け止めて運営に反映させている	職員会議や日常業務を通じて職員の要望や意見、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に支援を行う。年休休暇や希望休も職員全員が取り、勤務状況を把握しながら環境を良くしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があれば職員が順番に参加して、研修内容を報告書を提出することで、職員全員が共有している。介護経験が無くても、働きながら資格取得を進めており、現在2名が初任者研修を終了している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホームの会合には参加をし情報交換を行っている。他者の行事にも行ったり来たりと交流をして良い所は取り入れている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に初めての集団生活の方には、周りとの関係に不安にならない様に、職員との関わりにも配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の思いを良く聴いて理解をし、信頼関係につながる様に務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の考えと現状とを見極めて、今必要なサービスを提供できる様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い一方的な立場では無く、会話をもち思いに理解共感できる様に心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、日々の出来事や変化を報告し、絆を深めて共に支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望で外出する時にも送迎など手助けし、以前からの交流も持続できる様に支援している	友人・知人等の来訪支援、地域のお祭りやふれあいサロン参加、近隣散歩や買い物などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者同士の関係性をよく把握し職員間で共有化して、関わりが円滑なものになる様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、入院中は見舞ったり相談を受けたり、経過を見守りながら関係が途切れないように努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやご本人の言動から、どのような思いをもっているのかを把握する様に努めている	日常の会話や家族からの情報提供で一人ひとりの生活歴や趣味嗜好を把握して職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子、受けていたサービスを確認し、生活リズムを把握しながら支援にいかせる様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や体調を見極めて、個々の有する力によって出来る事はしていただく様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見や要望を取り入れ、職員会議でカンファレンスを行い計画を作成している	本人・家族の意向や要望、カンファレンスやモニタリングで職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。また状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間で情報共有しながら、見直しなどにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じて外出支援や、買い物支援を柔軟に行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から公民館活動に参加されている方や多くの方が参加して楽しむ事が出来る様に、送迎をしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの掛かり付け医や希望する医療機関に定期受診をし、安心して過ごせる様に支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、通院等への支援や日常の健康管理で適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化も見逃さず早期発見に取り組んでいる。緊急時にも当番医など適切な対応をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提示をし、ご家族とも連携しながら、病院からの情報をもとに、早期に退院が出来る様に相談をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う支援体制は医師とご家族、職員が連携を取り、意向を踏まえて納得をした上で終末期をむかえられる様に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ができることを十分説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、救急車対応を行う。勉強会や話し合いも行い、各自が適切に対応が出来る様に努力している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災には消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。災害時には避難保護をして頂ける様に、地域の住民にも協力依頼をしている	近隣の住民の参加や消防署の協力を得て年2回の昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。また、緊急時の消火器の使用方法や救急救命講習を受講している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の個性を大切に考え、さりげないケアを心がけたり、人格を尊重した声掛けをしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないように職員会議やミーティング等で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めた事で押し付けず、表情や反応を見極めて、ご本人が決めやすい様に声掛けに気を付けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースに合わせて移動して、希望を訪ねたり相談をしながら寄り添っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣に合わせてその人らしさを保てる様に助言し、身だしなみに気を配っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて献立に取り入れたり、調理をしながらも会話をもち、食事を楽しみになる様に心掛けている	一人ひとりの嗜好の把握や咀嚼を考慮しながら食事を工夫している。また、一人ひとりの力を活かしながら、畑での野菜の収穫や漬物漬け、調理の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて量、固さ、盛り付けに配慮している。水分、食事の摂取した量をチェックし一日の必要量を確保できる様に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯洗浄の声掛けや見守り、必要に応じて支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時の見守りや個々の状態を確認、記録をしパターンに合わせて自信の保てる様に支援している	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握しながら、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い物や乳製品の食事を多く摂る様にしている。朝の体操にも重視して、記録を取り予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の好みの温度に合わせて入っている。個々の入浴後の記録をし、常に衛生的である様に務めている	入浴日を設定しているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。	今後は、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしていくことを検討しているので、その実践に期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	深夜でも不眠状態の時には、お茶を飲んだりお菓子をつまんだりしながらお話をし、ベッドに休む事が出来る様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、ファイルの整理をし内容確認して、容量が変わった時には体調の変化を見逃さず医師の指示を受ける		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で食事の下準備や食後の片づけ、自分の部屋の掃除機かけは習慣に行える様に支援している。楽しんで行える様子を見守りを行う		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて散歩に出て、地域のショップで休憩したり、買い物をしている。自宅の様子を気にされる方には、ドライブがてらに同行している	近隣散歩や買い物など戸外に出かけたり、上川神社祭の縁日や旭山公園での花見、果樹園でのぶどう狩りや比布でのイチゴ狩りなど四季折々の外出計画を立てて普段では行けないような場所でも、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診後に売店やスーパーで買い物をする時は、預かりしている金銭から自分で支払うなどの支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話を希望された時は、繋いで状況を説明してから話をして頂く。遠方のご家族からの手紙は、折り返し届いた事の電話をかけている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節ごとに置きものを代えて生活感を楽しめる様に工夫している	共用空間には、季節毎の飾りつけや夏祭り、花見などの外出行事の写真が掲示されるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置、畳みソファの配置の工夫で空間を取り、独りで新聞を読んだりゆっくりと過ごせるように工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた寝具、家具、仏壇等も配置し鉢植えの花を置いたり居心地の良い部屋になる様に工夫している	居室には、使い慣れた家具や寝具、日用品等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来る方は、包丁作業も取り入れて一緒に行う事で自立した有意義な生活を送れる様に工夫している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900862		
法人名	有限会社 シェナリゾート		
事業所名	グループホームことぶき I		
所在地	旭川市3条通21丁目1973番地の10		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0172900862-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事・献立を作り買い出しをして手作りの食事を提供している。敷地内でも家庭菜園をし、農家さんからも旬の取れ立て野菜、果物を求めて使用し味付け、盛り付けに配慮している。
 施設内の行事・古来の伝統行事は一年を通じておこなっている(初詣・節分・雑祭・端午の節句・七夕飾り・ことぶき夏祭り・敬老会・お彼岸のおはぎ・十五夜飾り・冬至かぼちゃ・クリスマス会・ボランティアの民謡、大正琴コンサートほか)
 外出の行事・四季を通じて外出の機会をつくり体力維持、五感刺激、気分転換に努めている(花見・いちご狩り・上川神社祭縁日・15丁目七夕見物・紅葉と秋の味覚・文化会館へ歌芸の講演会ほか)
 手伝い・朝のおしほりたみ・もやしの芽取り・煮りんごの皮むき・漬物を漬ける時の皮むき〜刻みの包丁作業も行っている。
 入居前からの風習を大切に、出来る事と出来ない事の見極めをしながら、日々を有意義に暮らせる様に支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、理解し、常に確認、意識しながら実践しケアに反映されている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加したり、事業所の行事を案内し、地域住民との交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践経験を活かし、地域住民たちの相談にのったり、アドバイスを気軽に提供している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では避難訓練などの参加者からの意見、質問を受けてサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの研修会には必ず参加し、情報交換を共有し、連携を図っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービス指定基準における禁止行為は、事業所の工夫や取り組みを示し、実施する		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で日常生活において入居者に対する態度、言葉遣いなど不適切なケアについて話し合い認識している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会もあり、必要と思われる相談があればアドバイスをを行いながら支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不安や疑問が生じないよう、十分な説明を行い同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの直接意見、苦情、お願い事などは速やかに対処し、改善している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等、日常業務においても職員の意見、要望を話し合う機会を設け、働きやすい環境に配慮している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行いキャリアアップ出来るような就業環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には全員の職員が交代で参加出来る機会を確保し、報告を職員が閲覧できる様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内の施設見学、行事等に参加をし、交流を持ち、意見交換などをして、経験をシェアに活かしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安、要望、置かれている状況を理解し、傾聴し、本人が安心して生活が出来るような関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安なことを良く聞き受け止めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを確認し、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こだわり、苦しみ、哀しみ、不安、喜び、楽しみなどの思い出を共感し、理解している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行いより良い関係を築いている。又、家族と同じような思いで支援していることを伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人などにいろいろな行事に参加して頂いている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間は職員も一緒に会話をしている。また利用者同士の関係が円滑になるよう働き掛をしている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に来訪出来るような関係を大切にしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。又、家族や関係者から情報を得ようとしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族さんに以前の生活や暮らし方を聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人、ひとりの行動や体調の変化を把握し、確認、記録するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞きながら、介護が出来るように作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員と状態をカンファレンスしながら個別に24時間シートを作成し、本人の1日の記録し、共有を行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に対応して様々なサービスが出来るようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに積極的に参加したり、施設のイベントに地域の方を招待して、交流を深めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医と連絡を密にして、定期受診時には日常の様子を伝えるようにしている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の本人の変化、情報や気づきなど詳しく報告するようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医院での通院時の時でも、普段の状態は報告済みであり、退院時など、状態を考慮して頂き関係を密にしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態、重度であれば、ご家族の意向や、要望を聞きに入院が必要になるまで、十分な支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応などミーティング等で常に話し合いをしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が常に意識を持ち、年2回の避難訓練の時は近隣の方の参加、協力をいただいている		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりの気持ちを持って、常に意識しながら接している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出希望や買い物への意欲を尊重し、心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	天気の良い日には近くにお散歩したり、庭に出て花や野菜に触れ合う機会を作り、また、ドライブに行き楽しんでいただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏祭りや誕生会、行事の時などにおしゃれをしてもらっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や体調に合わせて、野菜の切込みなどを手伝ってもらっている(漬物づけ、果実の皮むきなど)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バランスのとれた食事を心がけ季節の野菜、果実など早めに取り入れている。水分も多く取るように勧めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食、食事の後には必ず入れ歯洗浄し、歯磨きの手伝いをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は尿意や便意は本人のリズムに、寄り添うような形を取り、トイレ誘導等で支援する		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因となる繊維質の不足にならない様、個々の状況に合わせた食品を取り入れている。天候に合わせて近所に散歩に出かけたりしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴日の体調、希望を踏まえたとうで入れない時はシャワー浴、足浴、清拭等の支援を実施する		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様なその時々状況に応じて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが薬の内容を把握し、間違いの起らないよう服薬時の確認をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の出来る方に食事の後片付けや、その他のお手伝いをお願いし、コミュニケーションを取り楽しく支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々にドライブ、散歩など戸外に出かける事を重視して、楽しい日々を心がけて笑顔のある毎日をと願っています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のお店で散歩しながら寄ってお菓子などの買い物をして本人の力に応じて購入していただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さんからのプレゼント、親戚からの送りものが届いたときは、その都度電話で本人が直接お礼が出来るよう促している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が安心して生活が出来るよう心掛けている。談話室などがありテレビ、ゲーム、カラオケ、生け花を飾り、居心地の良さが見うけられる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の流れの中で居室に居たり共有の場に自由に来られ、利用者様同士で会話、テレビを観て過ごされています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分に利用者様、家族等に説明し、日々の暮らしが楽しく過ごしていける様な状況を作り、工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状況に合わせ、出来ることを注意しながら見守り支援を行っている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ことぶき

作成日: 平成 29年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	45	利用者の希望に沿った入浴支援。	職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしていく。	・勤務体制の考慮 ・人員体制の見直し ・入浴時の職員の配置の考慮	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。